

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月行っているフロア会議や日々の申し送り、ミニミーティングの時など、職員全体で理念に基づいたケアが行われているか話し合っている。また、採用時研修においても理念についての話し合いの機会を持ち意識づけを行っている。	法人の理念「その人らしく生き生きと」をホームの理念とし、利用者が「ゆったり、一緒に楽しく、豊かに」過ごすためには、何をすれば良いのかを常に考え、フロア会議やミニミーティング時などに話し合っている。採用研修時、理念についての話し合いが行われ周知徹底が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区の三九郎、夏祭り、文化祭へ積極的に参加したり、常会で行なわれているえんがわ亭にも参加し、地域の方々と交流する機会を作っている。松本、塩尻の市役所に千羽鶴を届け、中学生が千羽鶴を広島に訪問した際の報告会を当施設にて行なった。 幼稚園、保育園、小学校、中学校へ雑巾の寄贈の為訪問したり、散歩や買い物時地域の方々と会話を交わすことも多い。今年度は、ボランティアの方から落花生の苗をもらったり、近所の農家からズッキーニをいただいた。	地域の行事に積極的に参加し、地域の人々との交流が盛んに行われている。市役所に千羽鶴を届けることが毎年恒例となっており、その千羽鶴を中学生が広島に届けた際の報告が施設で行われた。集会所で行われる「えんがわ亭」の喫茶にも毎月参加し、馴染みの住民も見えており話も弾んでいる。幼稚園児や保育園児、小学生、中学生、高校生など、若い世代との交流があり、また、ボランティアとの交流も多く、地域に開放されたホームとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習、小・中学校総合学習の交流、高校、専門学校、短期大学の実習生やボランティア等の受け入れを積極的に行っている。施設長は、塩尻市医療介護連携推進協議会のいきいき手帳の委員長を行っている。また、地域の方を招いて命の終い方勉強会を定期的に開催したり、こまき祭りで地域の方々に向けた講演会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。議題に合わせ、高齢者や地域の方々の困っている事等、防災、事故など多方面な視点から意見交換を行ない、サービスの向上に繋げていけるように努めている。前年同様の出席者に加え、新たに地区の老人クラブ、保育園の代表者、小中学校PTA、広丘支所、介護ショップ、福祉協力員、障害者就労支援施設職員、消防防災設備会社、市の歯科衛生士等の方々をお呼びし行っている。	2ヶ月に一度開催し、本部ともいえる複合施設内のグループホームと合わせ開催回数も60回を迎えている。毎回テーマに応じた新しい方々をお呼びし活発に意見交換が行われている。地区の老人クラブや福祉協力員、障害者就労支援事業所職員、市の歯科衛生士等の出席もあり、出席者と連携を取りながらサービスの向上に繋げており質の高い内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員が定期的に訪問し、利用者の思い等相談に乗ってもらっている。認定更新の機会等に利用者の暮らしぶりやニーズを伝えホームからも情報発信を行い連携を図っている。今年度より、市の訪問歯科診療を取り入れ、歯科衛生士が定期的に訪問し、相談にのってもらっている。	運営推進会議にも市の職員が出席し、今年度より市の訪問歯科診療を取り入れ、口腔ケア、マッサージ、予防、嚥下など歯科衛生士の定期的な訪問によりきめ細やかな相談体制がとられている。介護認定の更新時にはホームから情報発信を行い調査に協力している。介護相談員の定期的な来訪があり、利用者の話を聞いたり相談に乗っていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や日頃のミーティング、フロア会議で日頃のケアが身体拘束や抑圧感を与えていないかケアの振り返りを行なっている。ホームでは日中鍵を掛けておらず、玄関、居室、ウッドデッキ等から自由に外へ出て掃除や畑仕事、花の手入れ洗濯干し等できる様支援している。	日中、窓や玄関は開錠している。利用者は庭に洗濯物を干したり、畑に行ったりと自由に出入りしている。外出しようとする様子が見られた時にはさりげなく一緒に外出しホーム周辺を散歩している。日常生活の中で言葉で抑圧したり利用者の行動を束縛したりしていないか話し合いを行い、拘束のないケアに取り組んでいる。	

グループホームこまき野村宮の前・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	採用時研修において、高齢者虐待防止関連法に関する勉強会を行っている。会議やミーティングの場などで適切なケアが行われているか、見過ごされていないか話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	採用時研修において権利擁護に関する勉強会を行った。成年後見制度の講習会のチラシなど利用者、家族等に情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、料金や看取り、医療連携体制等、時間を取って丁寧に説明し家族の不安や疑問等に応じながら同意を得る様にしている。介護報酬の改定や物価などの変動により利用料が増加する場合は、納得を得られる様に説明を行っている。状態変化等により契約解除に至った場合は、本人、家族と相談し、その後の対応方針も含め、納得を得られる様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、現状報告をするともにささいな事や気になる事がないか思いを聞くよう職員から働き掛け、何でも言ってもらえる環境作りに努めている。遠方の家族にもホーム便りをお送りし、日頃の様子等お伝えするようにしている。運営推進会議に家族も参加していただき、自由に意見や思いを伝えられる機会を作っている。昨年度は、家族アンケートを実施し、意見や要望を聞いた。また、家族会を初めて開催し、食事を囲んで家族同士、職員も含めそれぞれの思いや感じている事等を話す時間を設けた。	ほぼ全員の利用者が意見や要望を伝えられる。家族には面会時に利用者の様子を話すと同時に何でも話していただけるような雰囲気作りに努めている。また運営推進会議に参加いただき、意見を述べていただく機会も設けている。初めての家族会を開催したことで家族間の交流もでき、色々な話を聞きホームの運営に反映している。また、家族へのアンケートも実施・分析し、サービスの向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のフロア会議には理事長も参加し、意見や要望、ケアの方向性等について話し合っている。職員の気付きやアイデアを会議やミーティングの場などで聞くようにし、日頃からコミュニケーションを多く図り、意見が反映できるよう心がけている。	フロア会議で意見や要望、提案などが活発に出され、運営に活かされている。行事の担当になった職員は計画立案の際、理事長や本部職員などにも相談を掛けており、何事にも風通しの良い職場風土が醸成されている。事務職員も行事などを手伝うことで関わりを持ち、全職員で利用者に向き合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に来て、利用者と過ごしたり個別に職員の業務や悩みを把握する様に努めている。年1回自己評価を行い、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。また、職員が資格取得に向けた支援を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、参加した研修報告は法人リーダー会議で伝達講習し、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。認知症介護実践リーダー研修に参加できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や事例検討などを通して他事業者との交流を持ち、質の向上に励んでいる。同法人のグループホーム同士でもリーダー会議や運営推進会議を通して情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時は、利用者、家族と事前面談を行ない、本人の心身の状態や生活環境を把握する様に努め、本人の希望や不安を理解し、安心して頂ける様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の現在の困り事や希望などを伺い、ニーズを把握するように努めている。その上で、家族には、入居前にグループホームの様子を見て頂き、入居後グループホームとしてどの様な対応ができるのか、生活やサービスについて事前に話し合いをしている。また、今までの家族の苦労や不安、要望を聞き、信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況を正確に把握し、必要に応じてケアマネジャーや看護師と連携し、対応を行っている。早急な対応が必要な相談者に対しては、ケアマネジャーと相談し、柔軟かつ早急に対応を行なった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者はともに暮らす同士として喜怒哀楽を共にしている。日常の会話の中で、昔の暮らしや歴史を教えていただいている。また、利用者の得意な料理の天ぷらや蒸しケーキ、季節の煮物、野沢菜漬け、梅漬け、かりん漬け等や畑仕事、裁縫、生け花、昔の歌などを教えて頂く機会も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状況をこまめに報告、相談し、支援について共に考えている。誕生日会に出席して頂き、楽しい時間を共有している。また、家族会を開催し、交流の場を設け、本人を支えていく為の協力関係作りに努めている。娘さんと散歩に出掛けたり、ご主人と一緒に花を見に出掛けたりした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や、以前より通われていた教会への外出、お盆の帰省、友人や知人、親戚等の来訪などその方に応じた支援を行っている。遠方に住む子供やその家族が来訪する機会も多い。また、常会で行われているえんがわ亭などにも参加し、馴染みの人や場所との繋がりを継続できるように努めている。	利用者の中にはホーム周辺に自宅のある方もおり、買物や散歩途中に友人や知人に会い、あいさつを交わすこともある。家族の支援を受け馴染みの美容院に行ったり、お盆の日中に一時帰宅する方もいる。区内で行われる「えんがわ亭」に参加し顔馴染みの方との会話を楽しんでいただくなど、出来る限り今までの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったりして、利用者が孤立せず、良い人間関係が作れるように支援している。皆で楽しむ時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りに努めている。また、役割活動を通してより良い関係作りを心掛けている。その一方で、一人で落ち着ける環境作りにも配慮している。トラブルがあった際には、利用者双方が落ち込まないような対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されても家族が来てくださり利用されていた時を懐かしみ、季節の野菜や果物、新聞紙や布、パット等必要な物を届けてくださるとい交流が続いている。また、職員が家族の自宅を訪ね、フキをいただく事もあった。退居された方を訪ね、他施設へ面会に伺った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での言動や表情、行動から本人の思いを汲み取るようにしている。意思疎通の困難な方には、こちらからゆっくりと話しかけ、ゆっくり話して頂いたり、ふとした表情の変化、家族や以前利用していた事業所から情報を得て本人の視点に立って話し合っている。	ほとんどの方が思いを伝えられる。困難な方にはゆっくり、一対一で話を聴き表情やしぐさから本人の思いを引き出すよう心がけ、家族や利用していた事業所からも情報を得ている。夜間、お茶を飲みながら話し利用者の思いを汲み取ることもある。南棟は半数の利用者が新しくなり現在は利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、利用者一人ひとりの生活歴や生活環境、なじみの暮らし方、個性や、価値観などを把握に努めている。本人や家族などからお聞きしたり、他事業所からも利用時の様子など教えてもらえるよう連携を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の暮らし方や生活リズムを理解すると共に、本人のできないことよりもできる事に注目し、その方の全体像を把握する様に努めている。また重度化しても好きな事やできる事に注目し、体調を見ながら行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日々の関わりの中で思いや要望を聞き、利用者主体の暮らしを反映させた介護計画にしている。また、フロア会議や日々のミニ会議の中でもモニタリング、カンファレンスを行い気づきに努め、急な状態変化に応じて臨機応変に見直しができるようにしている。	職員は1~2名の利用者を担当している。利用者の主体性を重んじた日々の暮らしを考え、介護計画は担当者が立案し、フロア会議やミニ会議の中でもモニタリング、カンファレンスを行い、評価は3ヶ月毎に実施している。家族への説明も担当者が行い責任を持って業務に当たっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意して、食事、水分、排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉やエピソード、気づき等を記録し、介護計画に活かしている。また、出勤時個人記録や申し送りノートを確認しこまめに情報を共有している。また、個別の記録を基に、介護計画の見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院の付き添いや、送迎、個別的な買い物支援など柔軟に対応している。本人や家族の意向にも配慮しながら家族の方への昼食の提供なども声掛けしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して暮らし続けられる様に、運営推進会議には警察、消防、教育機関、民生委員、近隣スーパー、薬局、包括支援センター、地域住民、老人クラブ、介護ショップ、障害者就労支援施設、消防防災設備会社、市の歯科衛生士等に出席していただき、意見交換、協力関係を築いている。本人、家族の希望により訪問理美容サービスを利用している。こまき祭りなどの行事の際、ボランティアの方々に来ていただいたり、地区の文化祭への参加、常会で行われているえんがわ亭への参加等を通し協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合診療医、歯科医、婦人科医、耳鼻科医など、本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は希望に応じて家族付き添い、職員同行など柔軟に対応しており、いつでも相談できる関係となっている。歯科医の往診を頼むこともある。	かかりつけ医については利用開始時に説明し、従来通りか法人内のクリニックにするか選んでいただいているが、殆どの利用者が法人内のクリニックを選択している。利用者は定期的に健康チェックを受け、毎週そのクリニックの看護師がホームに来訪し相談に応じており、緊急時及び24時間の連携が可能となっている。従来からのかかりつけ医や歯科医などの専門科目の受診時には家族に必要な事項をメモで伝え、適切な医療を受けられるように支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情変化を見逃さない様に努めている。変化等で気付いた事があれば、定期的に訪ねて来てくれている看護師に報告し、適切な医療に繋げている。また、24時間いつでも相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度、1名の方が入院された。入院した際には入院時の本人の情報等の提供、医療機関、本人、家族との状況等情報提供を行なった。また、職員がお見舞いに行っている。今回は残念ながら病院にて亡くなられたが、今後同様の事があれば、退院時には家族や病院とも回復状況など情報交換しながら、退院後の対応について話し合っていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に近くなった場合でも、その都度本人や家族の意向を伺い、最期の時をより良く過ごして頂ける様に医師、看護師、職員間で話し合い、連携を図り対応している。開設以来、8名の看取りを経験したが、重度化した方のケアや終末期ケアは一人一人違い難しいと感じている。現在もフロア会議の場等で学習に励み、実践に取り組んでいる。家族会にて終末期への思いについても話し合った。	事前指示書を家族に渡し、元気なうちから終末をどこで迎えるかを話し合い方針を決めている。ホーム内での看取りを数例経験している。「命の終い方勉強会」で事前指示書について施設長の講演会が開催され、劇仕立ての「最期をむかえた時どんな過ごし方を望みますか」などわかりやすい説明がされ実践に取り組んでいる。家族会でも話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用時研修で対応について勉強する機会を設けている。また、毎月のフロア会議や日々のミニ会議でも実際に起きた事故や、予測される事故、急変時の対応について話し合い勉強をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	南、北ユニットそれぞれが出火した場合を昼・夜間を想定して、合同で4回避難訓練を行った。うち年一回は、近隣住民や民生委員の方々にも参加して頂き、消防署立ち合いで消火器による初期消火の訓練も行った。火災だけでなく、自然災害についても対策を考えていきたい。	年4回避難訓練を実施している。そのうちの1回は総合訓練で、地域の方や消防署にも参加をお願いしている。車椅子での避難や誘導を近隣住民や民生委員にお願いし利用者の見守りにも協力をいただいている。同時に地域の方も一緒に消火器を使った初期消火訓練を消防署から指導していただいている。食料品ほか備蓄品も歩いて5分ほどの本部に3日分保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い、本人の誇りやプライバシーを損ねる事の無いようにしている。援助が必要な際は、本人の気持ちを大切に、目立たぬよう、静かにさりげない言葉掛けや対応に配慮している。また、自己決定しやすい言葉掛けをするように努めている。利用者を人生の先輩として敬い、利用者の尊厳やプライバシーの保護の大切さをフロア会議や研修で確認し合っている。	年長者としての尊厳を守り、常に敬意を払い利用者一人ひとりに接するようになっている。フロア会議では事例ごとに人格の尊重やプライバシーの保護について話し合い、職員全員で利用者の気持ちを大切にしたい対応に努めている。呼び方については姓かフルネームに「さん」をつけ敬意を込めてお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者が自己決定できる場面を作り、複数の選択肢を提案するなどして、本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。意思表示が困難な方に対しては、表情や全身での反応を注意深く伺い、些細な事でも自ら決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、本人のその日の体調や気持ちを考慮しながら、本人の希望を尋ねたり相談し、その方のペースで過ごして頂けるように努めている。また、暮らしの主人公である利用者のサインを汲み取り、一日の過ごし方を柔軟に変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向で何を着るのか決めていただいている。意思表示や自己決定のしにくい方には、職員と一緒に考え、本人の気持ちに添った支援を心掛けている。その人らしさが保てるように支援し、なじみの美容院へも出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜と一緒に調理して楽しんだり、盛り付け、片付けなども利用者と共にしない、職員と利用者が同じテーブルを囲んで和やかに食事ができるよう、雰囲気作りも大切にしている。両ユニットで焼き肉会を行ったり、誕生日会には本人の希望に合わせた料理を作りお祝いしている。季節ごとの馴染みの行事食と一緒に作り、楽しめる工夫をしている。	ほぼ全員の方が自力摂取できている。利用者と職員と一緒に調理し、畑で収穫した野菜が食卓に上り、同じテーブルで和やかに食事をしている。焼き肉会を両ユニットで行ったり、誕生日会に太巻き寿司や煮物を作り利用者の得意料理に腕を振るっていただいたりもし、甘酒、おはぎなども手づくりしている。利用者も盛り付け、片付け等で役割を持ち積極的に関わっている。訪問調査日のおやつとしてホットプレートを使い3種類の五平餅を楽しそうに作っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用意し水分量、食事量の把握をしている。本人の食べる量や食形態に配慮しながら、食事の時間に食べられないようであれば時間をずらし提供したり、本人の好きな物、食べやすい物を提供したりするなど、個人に合わせた支援をしている。月に一回、栄養士と一緒に食事をしながらアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアは確実にやるよう支援している。利用者の状態に合わせてガーゼやスポンジを使用するなど、食べ続ける事ができるよう、個別に働きかけている。また、定期的に歯科衛生士に口腔ケアをしていただき、本人にあったケア方法を指導していただいている。		

グループホームこまき野村宮の前・南棟

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄サインを察知し、自尊心に配慮しながらさり気なく支援している。排泄チェック表を活用し、尿意の無い方にも時間を見計らって誘導するなど、トイレで排泄ができるよう支援している。また、パットの選択などは、メーカーのケアアドバイザーに相談に乗ってもらっている。法人でおむつの勉強会を行ない、職員の代表が参加し、伝達講習を行なった。	排泄チェック表を用い一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。時にはメーカーのケアアドバイザーにパットの当て方などの相談に乗っていただいている。また、勉強会も行っており、おむつかぶれで困っていた利用者が布パンツにパットで対応したことでかぶれが改善されたという。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材、乳製品などを取り入れ、排便チェック表を活用しながら、水分を多めに摂って頂いたり、看護師と連携しながら、本人に合った便秘薬を処方して頂くなどの支援をしている。また、体を動かしたり、腸の動きをよくする為に腹部マッサージやホットタオルを行ない、自然排便に繋がるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入浴したい日、時間に合わせて入浴していただいている。これまでの生活習慣や希望に合わせて入浴できるよう、湯量や温度など本人の希望に合わせて入浴を楽しんでいただいている。季節のしようぶ湯やゆず湯を楽しんでいたり、入浴剤も好みに合わせ選んでいただいているようにしている。最低週2回は入浴していただいているように努めている。	入浴日は一応決めているが本人の希望を尊重し、利用者の好まれる時間帯や入り方に沿うようにしている。毎日希望される方もいるが、好きでない方には少なくとも週2回、声かけを工夫したり体重測定などを勧め浴室に入らせていただいている。柚子湯など、季節に合わせたお風呂の提供もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は眠れるように散歩や体操等、日中の活動を増やし、生活リズムを整えるように努めている。また、寝付けない時には、温かい飲み物を用意したり、話をするなど対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを利用者別に作成し、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には薬の袋と本人を確認し、確実に内服が出来るようにしている。処方の変更があった場合は、申し送りノートや、個人記録に記録し状態変化の観察に努め、フロア会議にて薬に対する理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人が役割を持ち、得意分野で力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、その都度感謝の気持ちを伝える様になっている。食事作りや畑仕事など、その方の経験や知恵を活かし、協力しながら日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出掛け、外の空気や四季を感じて頂けるようにしている。お花見やバラ園見学、ぶどう狩り、紅葉狩りなど、皆で楽しみながら外出できる機会を積極的に作るよう取り組んでいる。また、本部で行われる行事へも毎回参加している。	天気の良い日は午後の暖かい時間帯を選び近くの公園やホームの周辺を30分ほど散歩している。本部の行事に参加することも多く、15分～20分かけ歩いて出掛けている。季節ごとの花見やぶどう狩り、紅葉狩りなどにも出掛けている。外出時に回転寿司に寄ったり、大型店でお茶を飲んだりお茶菓子などの買物をし、それをおやつに頂いている。	

グループホームこまくさ野村宮の前・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持っている方もいるが、事業所でお金を預かっている方も、買い物へ一緒に出掛けた際はご自身で欲しい物の代金を支払って頂けるような支援をし、安心感や満足感が得られる様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室は電話を設置できるようになっている。プライバシーに配慮しながら、利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。知人、親戚と手紙のやり取りをしている利用者もいる。また、年賀状や絵手紙教室の作品を送ったりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地がよく、安心感のある空間になるように、季節感、生活感を取り入れ、家庭的な雰囲気になるよう馴染みのある物や、使いやすい物を置くように工夫している。居心地の良い安心できる場所になるように配慮している。	玄関やリビングに菊の花が生けられ、シクラメンの鉢植えや観葉植物も置かれている。広いガラス窓の先にウッドデッキが、また、その先には中庭があり野菜や玉ねぎが植えられていて季節を感じることができる。手指消毒などの感染症対策は万全で、その一環として朝・昼2回窓が開けられ換気もされている。和室には炬燵が置かれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間の中でも、一人一人が落ち着く事の出来る空間になるように、ソファーや畳スペースを設けたり、廊下に椅子を置くなどの工夫をしている。利用者が描いた絵手紙や花などの装飾で居心地の良い空間を作っている。また、玄関のベンチや廊下の突き当たりの机など、好きな場所を選び、過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前より自宅で使用していたタンスや机、仏壇や寝具等を持ってきていただき、家族の写真や贈り物、人形や作品等を飾るなど馴染みのあるものに囲まれ、その人らしく安心できる居室になるよう工夫している。	各居室には洗面台が備え付けられ、持ち込まれた椅子がその前に置かれている居室も見受けられた。家族の写真や自らの作品、絵などが飾られ、落ち着いた雰囲気の居室も見られ、洋服掛けに上着類が掛けられ自分で自由に選んで着ることができるようになっている居室もあり、気持ち良く暮せるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体状況に合わせ、危険な所がないか検討し、安全に配慮している。ベッドにL字柵を設置したり、手の届かない呼び出しボタンなどにひもを付けるなど、環境整備に努めている。一人一人のわかる力を見極め、本人の不安、混乱材料を取り除き、自立支援に繋げている。		